



**シラバス参照**

タイトル「**2017年度 経済学部シラバス**」、フォルダ「**2017年度 経済学部シラバス**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	財政政策総論		
担当教員	<a href="#">中島 正博</a>		
対象学年		クラス	E1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金 1	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	標準履修年次 2・3年次		
科目名 (英語表記)	Public Policy in Particulars		
授業の概要・ねらい	政府（国と地方自治体）は財政政策を通じて、経済・社会に働きかけることで、所得再分配、資源配分、経済成長の機能を果たしている。本講義では、戦後を中心として、日本の経済社会に対する財政の歴史とその果たしてきた役割を学ぶことを通じて、今日の日本財政の特徴と課題を明らかにする。		
授業計画	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	戦前の日本財政	
	3	戦後復興	
	4	シャウブ勸告	
	5	高度経済成長と1965年不況	
	6	地域開発	
	7	都市問題	
	8	過疎、農村問題	
	9	社会保障の拡充	
	10	石油ショックと低成長経済	
	11	「日本型福祉社会」と行政改革	
	12	消費税導入とその後のバブル経済	
	13	地方分権と財政	
	14	地方創生と財政	
	15	まとめ	
到達目標	到達目標は、今日の日本財政の特徴と課題などの全体像を、歴史を踏まえて理解することである。そのうえで、たとえば少子高齢化社会への対応や、財政再建という今日の行財政問題の課題について自らの見解をもつことができることである。		
成績評価の方法	定期試験は実施しない。期間中に提出されたレポートで評価する。 レポートは、期間中4回ないしは5回の提出機会を設け、それぞれ35点満点で採点する。提出されたレポートのうち高位3回分の合計（100点を超えた点数は切り捨て）で評価する。		
教科書	なし。講義の際に配布するレジュメと資料に基づいて講義を行う。		
	高度経済成長期以降は、井手・諸富・小西編『日本財政の現代史』全3巻、有斐閣。		

参考書・参考文献	そのほかは、講義の中で適宜指示する。
履修上の注意・メッセージ	講義で学んだことや質問、講義の進め方への要望等を書いた「リアクションペーパー」を毎時間後に提出してもらう（提出は任意）。回答はライブキャンパスにアップするとともに、主な質問には次回講義の冒頭で答える。
履修する上で必要な事項	
受講を推奨する関連科目	
授業時間外学習についての指示	期間中に出してもらう「レポート」の作成のためにかなりの時間が必要となる。そのほか、高校までの、政治経済や日本史の教科書等、総務省ほか各省庁のホームページでの予習や復習、さらに授業内容に関連する課題に関する調査・考察など、自主的に学習することが必要である。
その他連絡事項	授業に関連する指示等はライブキャンパスを通じて行います。

